

二級河川一宮川 住宅市街地基礎整備事業 再評価について

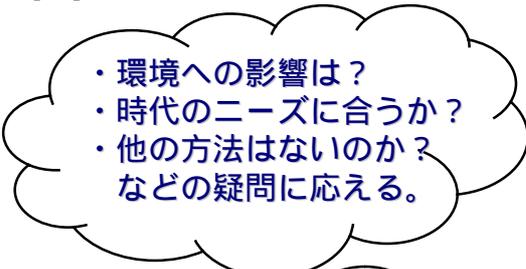
平成19年2月21日
千葉県長生地域整備センター

再評価を行う理由

社会的背景

長引く景気低迷

- 公共事業予算の減少
- 公共事業への関心の高まり
- 情報の透明性の確保
- 国民の環境回帰指向

- 
- ・環境への影響は？
 - ・時代のニーズに合うか？
 - ・他の方法はないのか？
- などの疑問に答える。



事業再評価のルール(評価者)

千葉県県土整備部所管
国庫補助事業再評価実施要領

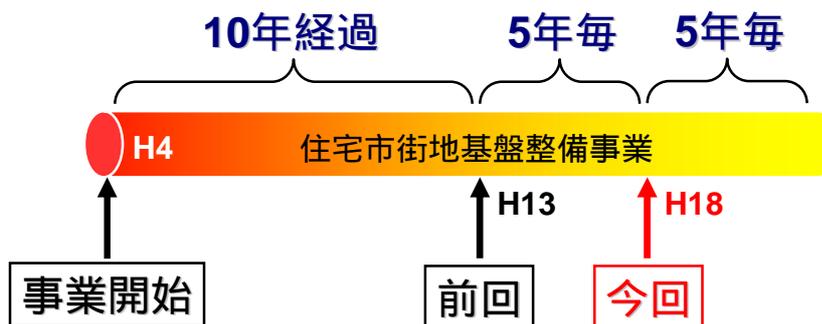
河川事業・ダム事業で、河川整備計画策定のための
流域懇談会が設立しているかどうか？

地域と密接な関係
計画策定段階から議論

評価監視委員会

流域懇談会

事業再評価のルール(評価時期)



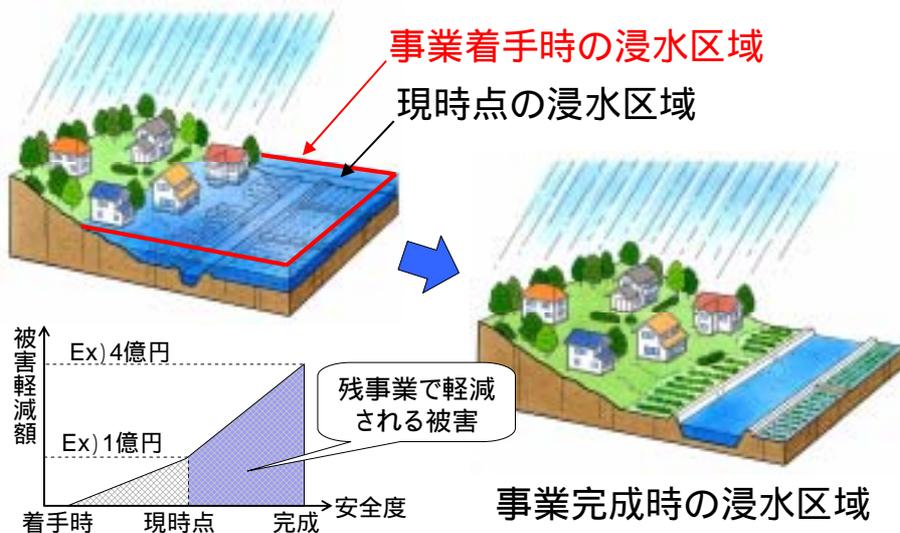
[対象] 事業採択後5年経過して未着工
事業採択後10年経過して継続中
再評価実施後5年経過した事業

事業再評価のルール(評価指標)



河川整備に係る費用(Cost)と、得られる便益(Benefit)の比率で評価。B/C 1.0で事業の経済的妥当性を確認する。

事業再評価のルール(評価指標)

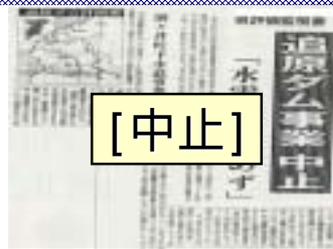


再評価の視点

事業の進捗状況
社会経済情勢等
事業の投資効果
コスト縮減や代替案立案等の可能性



[継続]



[中止]

流域懇談会の結果に基づき河川管理者が判断

再評価の視点 (事業概要)



住宅市街地盤整備
・H4 ~ H20(予定)
・新一宮大橋 ~ 松潟堰
・L=3,200m

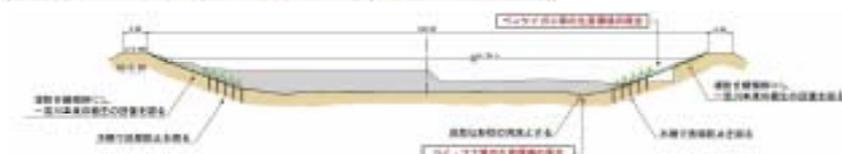
広域河川改修
・S46 ~
・河口 ~ 瑞沢川合流点
・L=7,040m

再評価の視点 (事業内容)



【事業内容】

- ・河道拡幅
- ・掘削
- ・樋門16基
- ・橋梁 1 橋



再評価の視点 (事業の進捗状況)

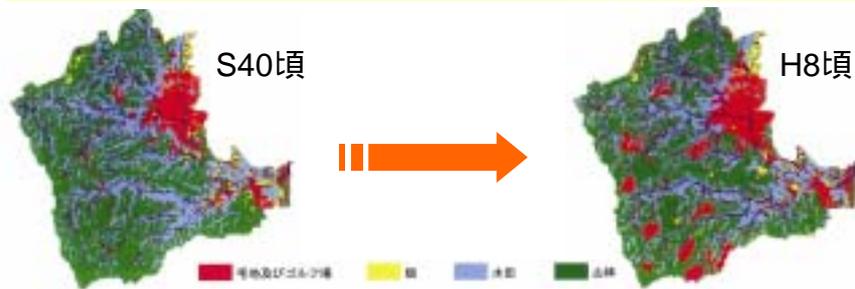
平成17年度末時点

	全体計画 (億円)	投資事業費 (億円)	進捗率 (%)
全 体	249.0	205.9	82.7
工 事	129.2	88.6	68.6
用 地	119.8	117.3	97.9

再評価の視点 (流域状況)

一宮川流域は、ゴルフ場や宅地の開発に加え、土地
区画整理事業や農地整備も進められている。

このため、洪水時における流出増が懸念されており、
早期の治水安全度の向上が望まれている。



再評価の視点 (被災状況)

過去の被災状況

発生年月日	起因	浸水面積 (ha)	浸水家屋戸数(戸)		
			床下	床上	合計
昭和45年 7 月 1 日	台風2号	913	113	180	293
昭和46年 9 月 6 日	台風23,24,25号	391	214	197	411
平成元年 8 月 1 日	台風12号	614	837	1,811	2,648
平成7年 9 月17日	台風12号	254			457
平成8年 9 月22日	台風17号	1,260	1,118	1,476	2,594

再評価の視点 (被災状況)

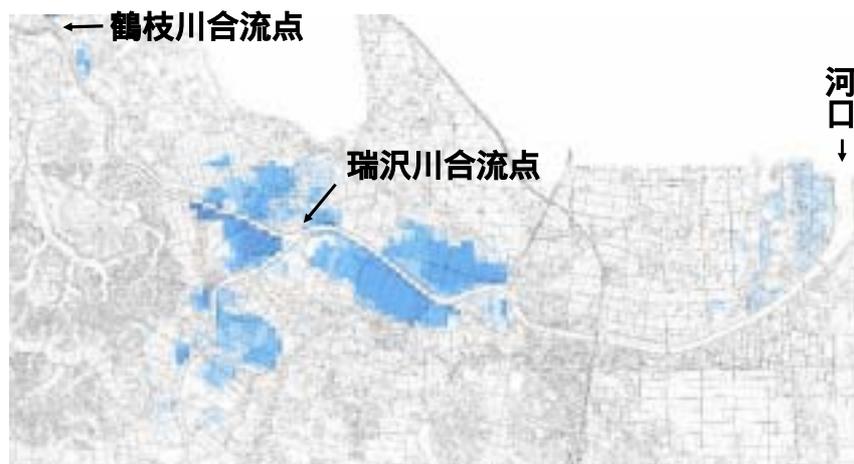


平成30年9月22日洪水(鶴枝川合流点) 西側河内



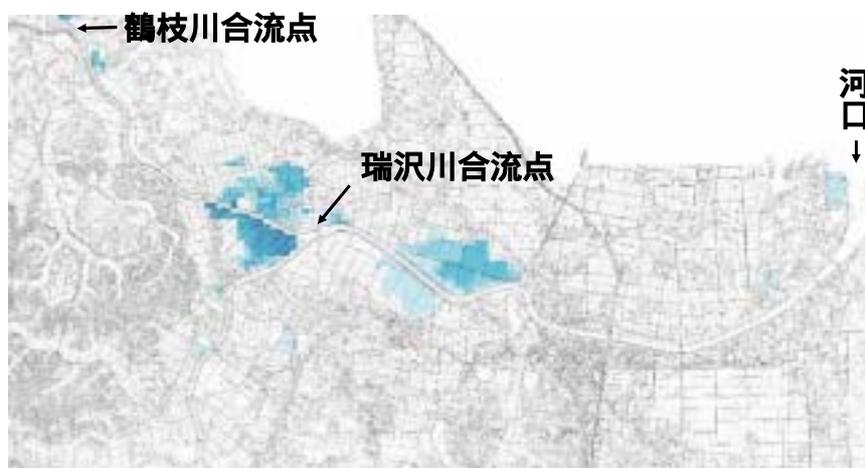
平成30年9月22日洪水 中土鶴石橋(一宮町一宮)

再評価の視点 (事業効果)



事業着手時(H4)の河道によるW=1/10洪水の想定浸水区域

再評価の視点 (事業効果)



現在(H18)の河道によるW=1/10洪水の想定浸水区域

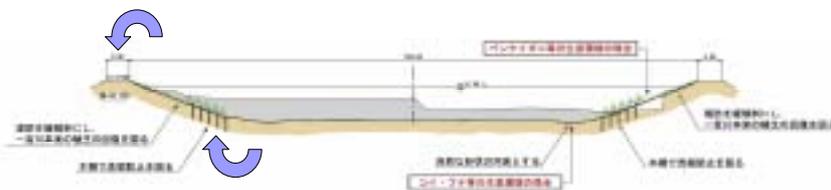
再評価の視点 (費用対効果)

C費用	建設費【現在価値化】	71.4億円
	維持管理費【現在価値化】	6.5億円
	費用合計	78.0億円
B効果	便益【現在価値化】	98.6億円
	残存価値【現在価値化】	7.6億円
	効果合計	106.3億円
	費用便益比(CBR) B/C	1.36

再評価の視点 (コスト縮減)

- ・掘削土の再利用
- ・発生材(既設護岸の取り壊し等)の活用

掘削土の再利用



既設護岸取り壊し時の
発生材料の活用

再評価の視点 (ソフト対策等)

1 河川上流部での流出抑制対策

- ・土地開発申請時に調整池や雨水浸透施設の設置を指導する。
(千葉県宅地開発指導要綱等)

2 被害軽減対策

- ・インターネットにより水位情報を公表する。(WINK2)
- ・浸水想定区域と避難場所、避難経路を明示した洪水ハザードマップを作成する。



WINK2



洪水ハザードマップ

事業再評価結論

[事業の進捗状況]

進捗状況83% , H20年完了予定。

[社会経済情勢]

流域の市街化の進捗に伴う流出増の懸念。
水害の頻発。早期の治水安全度向上が望まれる

[事業の投資効果]

費用対効果 $B / C = 1.36$ 1.0

[コスト縮減案等]

建設リサイクルや被害軽減のソフト対策を実施。

事業
継続